

平成 30 年度の主な事業報告

社会福祉法人ふじの郷

法人全体にかかわる報告事項

- ・地域生活支援センター（グループホーム、避難棟）建設
概ね計画通り完成。4月1日より開業。
- ・放課後等デイサービス事業の開業の為作業棟の改修を実施。平成31年1月からの開業を目指したが、指定取得を3月に延期、実質の開業を4月からとした。
- ・法人事業の円滑推進の為に法人事務専門官を設置し、法人事務体制の強化を図った。
- ・安否コールの導入
- ・広報ふじの郷として、リニューアルして3号まで発行した。
- ・社会保険労務士との契約を見直すと同時に採用時の初期雇用契約を見直すことによる助成金申請の実施をした。
- ・新規採用者獲得の為に、就職支度金や紹介制度を独自に作り、募集活動の後押しを行った。
- ・自衛隊駒門駐屯地の59周年記念で理事長が退職者援護事業への功績を表彰された。
- ・人員確保の体制強化のために、支援パートの時給を900円/1時間から950円に値上げした。
- ・室長の退職に伴い、新事業推進室を閉じ、新事業に関わる事務を法人事務専門官に引き継ぐ。
- ・事務体制の強化の目的でパート事務1名を採用し新事業事務の円滑化

平成 30 年度事業報告

「さつき学園」重点報告

1. 人員体制に関して、昨年度最高基準の1.7:1を実現し、それを維持するとともに、次年度に控えているグループホームや放課後等デイサービスの新規事業を円滑に推進するための予備的な人材の育成を図るため、引き続き増員に力を入れた結果30年度末で1.4:1という体制まで強化でき、新事業のスタートの準備ができた。これには自衛隊援護局からの紹介者が多数含まれており、人員不足を解消する意味で大きく貢献した。
2. 人材育成に関して、これまでギリギリの人員で施設運営してきたため、外部への研修等は限られた参加しか、出せていませんでしたが、30年度は体制強化と人材育成を同時に目標を掲げて行ったために、例年の3倍以上の研修参加を実現できた。
3. 御殿場市の花壇コンクールにて表彰を受ける。
4. 利用者の余暇の充実として、土日の余暇活動の見直しや活動の充実を行った。現在土日に帰省できなくなっている方が約14名となり、今後はご家族の高齢化により自然増が予想される。これまでドライブのみの活動からクッキングや制作活動な

ど少しずつ活動の幅を広げることができた。

5. 個別支援外出として、特定の利用者へオプションとして実施していたドライブや外出しての活動を、全体のグループ外出へ発展させ、全員の利用者さんがグループによる外出する機会が増えている。
6. 第三者評の継続…一昨年県社会福祉協議会による第三者評価を受審して、その流れで当法人の第三者委員により昨年に続いて、活動報告とその内容や課題に関する意見懇談会を実施した。
7. 自閉集啓発に関する活動として、御殿場市役所で利用者さんを中心に世界自閉症啓発週間のピラとふじの郷とさつき学園の説明チラシを配布し、自閉症理解と施設への理解を市民にPRした。
8. 昨年5月に感染性胃腸炎の集団感染があり、ノロウイルスGⅡの感染により、最終的に16名の利用者さんと2名の職員に下痢等の症状が出たが、重篤化することは無かった。内外に情報を提供し、感染の拡大を防止した。
9. さつき学園の職員が50名を超えて、産業医を配置することが求められたため、神山復生病院の江藤先生と契約を結んだ。
10. グループホーム工事によって出た、残土の処理を有効活用することと、さつき学園の出入り口のカーブの危険回避の為に、安全な出入り口と駐車場の整備を実施した。同時にカーブのところにあった、花苗等の路肩販売所も充実整備した。
11. 全員での1泊旅行と同時に空になった施設に増改修工事のプランコンペを実施し、13社ほどの設計業者が具体的な見学に入った。
12. 園長が兼務で具体的な部分に目が行き届かなくなることから支援課長を配置して、補うこととした。
13. ご家族の高齢化を受けて、試験的に週末帰省しない週をつくり、実施した。大きい混乱なく経験できた。
14. 高齢化による看護業務への対応を見据えて看護師2人体制にした。
15. 45名の利用者現員のうち、8名の利用者がグループホームへ地域移行することとなり、現員が37名となる。現在の定員46名を45名としていくことが決定された。定員変更の時期は未定。空いている3名の補充については、グループホーム移行後の経営と1人部屋化の増改修工事との兼ね合いで決定していく。
16. グループホームからさつき学園の生活介護に通う方たちの昼休みの休憩場所としてプレイルームの改修工事を実施。
17. グループホームの朝夕のパート職員採用が不調にのため、さつき学園の職員により全面応援体制を敷く。

日常支援体制

① 支援

- ・個別支援計画を各棟の支援会議により成案化し、年2回モニタリングを実施。

② 会議…職員会議・主任会議・棟別会議・権利擁護委員会・作業班会議

ケース会議

- ③ 広報…法人広報誌「ふじの郷」、さつき学園広報「さつき通信」発行
フェイスブック・施設パンフレット・職員募集広報、自閉症啓 発デイ
の取組みなど
- ④ 虐待防止・権利擁護…後見法人御殿場さつきとの連携、行動制限実施報告書の
作成、伝言機能による啓発、
- ⑤ 防災・安全管理…毎月の防災訓練・安全運転検定の実施・車両の管理・ 非
常用食料の管理・非常時のマニュアルの作成と見直しなど
- ⑥ 医療…健康管理・日常的な与薬・管理、緊急時の対応、通院・入院への対応、
嘱託委への報告と毎月の連携協議
- ⑦ 栄養…給食による栄養管理、給食委員会を開催し、情報交換
- ⑧ 研修…全体職員研修・新人職員研修・他外部研修への積極的参加
- ⑨ 苦情解決・第三者委員…苦情受付と年1回の第三者委員との懇談会
- ⑩ 余暇活動と家族との関り…土日在園者の余暇活動の充実とグループ外出など
の余暇の充実・クラブ活動の充実・家族会への協力と参加、家族会研修会への
協力

「ふじあざみ」

1. 富士圏域発達支援コーディネーターを受諾し、地域の発達障害児者の支援
に貢献した。
2. 利用者数が順調に伸びて在籍者が28名となった。一方、就労移行支援の希望者は
0となり、事業を休止することとなった。
3. 昨年8月突然、富士市の新工業団地がふじあざみの周囲に計画されているという
情報が入り、新工業団地開発に基づく具体的な移転計画がスタートした。
4. 櫻井施設長退職に伴い、小林さつき学園施設長が当分の間兼務することとなる。ま
た、増田副施設長が死亡したことにより、さつき学園から野村主任が着任し、新た
な体制となった。
5. 人員体制2.5:1から2.0:1に基準をあげることに取り組んだが、年度内の実現は
できていない。サビ管の急な退職など人事面では厳しい局面もあったが、非常勤の
在籍者で資格所有者がいたため、大幅減算は免れている。
6. 初めて、給食の試食会を実施利用者のお母さん
7. 支援体制の見直しを討議し、ユニット制の導入検討を開始した。
8. 放課後デイの児童発達支援管理者が不在になったことにより、県との協議の上、コ
ーディネーターとの兼務を命じた。併せてコーディネーター補助員を立てて、令和
元年12月までの間は兼務体制とした。

日常支援体制

- ① 支援…個別支援計画を支援会議により成案化し、年2回モニタリング
- ② 会議…職員会議・ユニットリーダー会議・管理会議・ケース会議
- ③ 広報…ふじあざみ広報「ふじあざみ通信」発行 毎月

施設パンフレット・職員募集広報、自閉症啓 発デイの取組み

- ④ 防災・安全管理…毎月の防災訓練・安全運転検定の実施・車両の管理・ 非常用食料の管理・非常時のマニュアルの作成と見直しなど
- ⑤ 医療…健康管理・日常的な与薬・管理、緊急時の対応、通院への対応、嘱託委
への報告と連携協議
- ⑥ 栄養…給食による栄養管理、給食委員会を開催し、情報交換
- ⑦ 研修…全体職員研修・他外部研修への積極的参加
- ⑧ 苦情解決・第三者委員…苦情受付と年1回の第三者委員との懇談会
- ⑨ 余暇活動と家族との関り…ワンコイン外出などの余暇の充実・サポーターズク
ラブへの協力と参加、自閉症協会富士支部への協力
- ⑩ 生産活動の受注と各企業との調整等